

私の将棋人生

加藤一二三

NHKラジオ
明日へのことば
2012年10月15日



1940年1月1日生まれ。福岡県嘉麻市(旧嘉穂郡稲築村)出身。

棋士となって50年以上経っており、現役最古参である。

史上最年少の14歳7ヶ月にしてプロ棋士になり、18歳でA級八段、20歳で名人挑戦等、数々の大記録を達成した、通称「神武以来の天才」。名人位その他、十段、棋王等を獲得。A級在籍36期。2000年4月29日紫綬褒章を授与された。

その個性、挙措から多くの人に愛されている。愛称は「ひふみん」。第45回東急東横店将棋まつり(渡辺竜王・上田女王・豊川七段のトークショー)にて、自身が「ひふみん」と呼ばれている事を知っている事が判明。本人はいたく気に入っているらしい。すなわち、「ひふみん」は本人公認の愛称である。

現在は主に解説役としても活躍しており、軽妙で愛嬌のある語り口ながらも的確に解説を進める事で人気がある。

72歳、通算1300勝を達成。現在1308勝、中原名人と一緒に。負けは1070敗で一番。多分この負け記録を抜く人はいないのでは。通算対局数では1位。

小学校の頃、将棋を覚え、しょうえい会に入った(6級から3段までの養成機関)。中学生の時に4段、大学に入る頃は8段になった。神武以来の天才と言われた。

大山名人と7番勝負を戦い負けたが、大山名人からは、いづれ加藤にはまけるだろう。と言われた。当時、大山名人は常勝だった。大山 升田時代には150局位、勝負をしている。中原名人とは100局以上戦っている。プロとしてやっていけると確信したのは昭和43年、28歳の時の10段戦。

将棋の名人は400年続いている。名人は徳川家康がはじめたもの。家康は名人に給料を払っていた。初代は大橋宗桂(そうけい)。毎年11月17日に将軍の前で将棋を指していた。二代目は大橋宗古(そうこ)。二代目は将棋のルールを明文化した。このルールを今も使っている。対局の棋譜は全て残っている。昭和10年から世襲の名人から実力名人に代わった。木村義雄名人が実力名人第一号。

A級に10人がいてリーグ戦でタイトルを獲得した人が名人挑戦権をえる。A級には36年間いた。昭和35年、早稻田の学生の時、大山名人に挑戦、1勝4敗。次の名人挑戦は13年後。

7年間中原さんには18連敗だったが、勝負にそんな差はなかった。1982年に42歳で中原名人に勝って新名人になった。

カソリック教会でいづれ名人になれる。と祈っていた。対局にあたって大切なことは心身の調整につける。モーツァルトの音楽を聴いたり、聖書を読んだりしている。

自分が若かった頃より現在の作戦は5倍ぐらい増えている。今後も精進を突らせたい。

1970(昭和45)年、30歳の時、自然の流れで洗礼を受けた。大山さんは入信に理解を示してくれた。1308勝目が大山さんの命日だった。大山さんは自分の15歳先輩。味わいのある方だった。

現在まで名人は12名。升田幸三さんからは名人になったら、長く現役でいられるよ。と言われたが、現在72歳で活躍している。信仰の力が将棋を支えてくれた。

将棋を打つときの体力・精神力は大変なもの。タイトル戦は持ち時間8~9時間。長時間集中して戦っている。対局前は祈ったり、聖書を読んだりしている。好きな音楽も聴く。メンデルスゾーン、バッハ、モーツァルト。モーツァルトのオペラを聴く。モーツァルトは作曲は元気でないと作れないと言っている。彼の音楽は人生を肯定している。生きていることを楽しんでいる音楽。

1970年に洗礼を受けた。神の力を得られ努力が開花すると思った。将棋は孤独な競技。魅力は勝ち負けとそのプロセス。いつも一番よい手を捜している。真理の追究の意識がある。弱い部分が出ないように精神的に調整している。信仰心が力となった。昭和54年、中原王将と1月25日に戦った。近くにカソリックの教会があり昼休みに行った。そこで閃いた手で勝った。1300勝のうち800勝は神の助けで勝っている。

1970年に洗礼を受けていなかったら、別の人生を送っていたと思う。人・動植物を大切にしている。1986年にローマ法王からシリベストロ勲章を得た。文化・学問に貢献した人への勲章。将棋が認められた。モーツァルトもこの勲章を得ている。

色紙には「直感精読」「剛毅」と書く。「剛毅」は困難な状態で勇気を持って信念をつらぬく。と言いう意味。この力は神から与えられた力。

埼玉県行田市では一年に一度、子供達に将棋を教えている。はじめに、お願いします!ではじまり、有難うございませうで終る。20回以上続いている。子供達は盤面をみつめ集中している。勝とうと思っている。子供に、「先生、さすが強い!」と言われる。